
地獄をプレゼント。

雷雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地獄をプレゼント。

【Nコード】

N7198P

【作者名】

雷雲

【あらすじ】

12月25日、その日にだけ犯罪組織を完全抹殺する者がいた。人々はその者を死のサンタと呼んだ

（前書き）

クリスマス記念の作品です

12月25日、その日にだけ犯罪組織を完全抹殺する者がいた。人々はその者を「死のサンタ」と呼んだ

上坂健一は小学五年生。

父は株式会社の社長。健一は裕福な家庭で育っていた。

健一は母と銀行に来ていた。今日はクリスマススイブ。明日のクリスマスパーティーの為、準備の資金を下ろしにきたのだ。

「まだ？ 母さん」

「そう催促するんじゃないの」

母がそう言いながら札を財布に入れ、健一と共に扉から出ようとした。その時

「動くなああああ!!」

その声を聞いて健一が振り返ると拳銃を持った集団。その一人が空の黒いビニール袋を持っている。

（銀行強盗……？）

「やることはわかってんだろ!! 早くやれ!!」
悲鳴。

銀行員はすぐにありったけの金を袋に詰め込む。

袋がいっぱいになると集団の一人は何かを見つけたのか拳銃を銀行員の額に当てた。

パン！！

破裂音が辺りに響く。銀行員は頭の三分の一が消し飛んでいた。

ぐちゃぐちゃに潰れた脳味噌と赤い液体が頭から外部に飛び出す。

それは悲惨な光景だった。健一は吐き気がしていた。

甲高い悲鳴。飛び交う怒号。銃を持った集団達はこちらに走り出してきた。

そして健一に腕が巻きついた。誰かに持ち上げられている。母の叫び。ドスツと鈍い音。

健一が暴れようとする胸が締め付けられ、今にも窒息死しそうだった。

「母さん！」

健一は叫んだが母は気を失っていた。

「サツが来る！ 早く逃げるぞ！！」

袋を持った男が言う。

「大丈夫だ。こっちには人質がいる」

健一を捕まえている男が言った。

集団は黒いワゴンに乗り込む。健一を捕まえた男もワゴンへ乗り込んだ。

「お父さん……お母さん……」

エンジンがかかり、ワゴンは道路を走り去って行った。

健一はある倉庫に連れ込まれた。もうすぐで12時。クリスマスを迎える。

まさかこんな感じでクリスマスを迎えることになるとは予想もしていなかっただろう。

「さて、これからどうする？」

「金は盗んだし、もうすぐサツがここに来るだろ」

「その前に……このガキを殺しておくか」

集団の一人が拳銃をホルスターから抜いた。健一は恐怖心のあまりその場に居竦まってしまった。

「待て」

その言葉を言ったのは集団の一人だった。

「もっといい考えがある」

「何だ？」

「もうすぐでクリスマスだ。クリスマスになった直後に殺すつてのはどうだ？」

「そりゃあいいー!!」

それから数分、沈黙が流れた。そして集団の一人が口を開いた。

「クリスマスまで、10……9……8」

健一は死を覚悟した。

「3……2……1……0!!」

パンパン!!

二つの銃弾が撃ち抜いたのは拳銃を持っていた男だった。集団は驚いている。

健一は顔を赤に染めながら気絶してしまった。

「誰だお前は!!」

月が見える高い窓に一つの人影。
その人影はマフラーをなびかせ、右手にはリボルバーを持っていた。

「人々からは死のサンタと呼ばれているな……サンタに興味はないんだが」

「噂には聞いていたが、本当にいたとはな……死ねっ!!」

集団の一人が拳銃を取り出し、撃つ。だがその時にはその者はいなかった。

「くそっ！ 取り逃がした！！」

「どうする浩二！ 死のサンタっていえば同士を次々と殺しているやつだぞ！！」

「大丈夫だ……これがある」

集団の一人、浩二は箱から何かを取り出した。

死のサンタと呼ばれる者は屋根を駆けていた。右手にはリボルバーであるS & W M 5 0 0 が握られている。

S & M M 5 0 0 はアメリカのスミス&ウエッソン社が2003年に開発した銃であり、一般市場に流通する商品としては「世界最強の拳銃」。

死のサンタはさっきの窓と向かい合った窓から銃を構えた。

バラバラララ！！

浩二が箱から取り出したのはガトリング銃のM 1 3 4。無数の銃弾が死のサンタを襲う。

死のサンタは倉庫からダイブして銃弾を避けた。

死のサンタの目の前にはLPガスのボンベ。

「……死んだか？」

「あれだけ銃弾をばらまいたんだ。生きてるわけがない」

ズドオオオオン！！

何かの爆発で壁に穴が開いた。そして五つの破裂音。

「……冗談だろ……くっ」

集団は全員死のサンタに抹殺された。

死のサンタはハンカチで健一の顔を拭き、建物の屋根を次々と飛び移って行った。

今宵の空は星が綺麗だった。

（後書き）

貴方がいる場所から見える今宵の空は綺麗ですか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7198p/>

地獄をプレゼント。

2010年12月31日06時12分発行